

健友俳壇 第20回

(令和6年1月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、会報第72号(平成26年7月号)から掲載が始まり20回目となりました。今回は、秋の「健友旅行」が実施されました。

「一般の句」20句、「旅行の句」6句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田 桜(うえだ さくら)氏に選句と講評をいただきました。

一般の句

●特選(2句)

◎ 落葉舟 鯉も長寿の 薬師池 梅澤 輝男

薬師池に浮かぶ落葉を舟と見立てた。悠々と泳ぐ鯉も薬師の恩恵に与り長寿を得ているかのようである。鯉に重ねて作者も長寿にあやかって欲しいものである。

◎ 冬の空 鐘楼削る カンナ音 手塚 暁美

冬の空気の澄み切った青空のもと、カンナを削る音を耳にした。何を削っているとの間に鐘楼を削っているという。カンナの音と鐘楼との意外性を捉えた。

●入選(3句)

◎ 冬枯れの ムベの実の穴 鳥の跡 吉田 誠

郁子はアケビ科の蔓草、果実は紅紫色でアケビのように開かない。果肉は白くて甘いので鳥も好む。秋の季語ではあるが既に冬枯れている。よく見ると郁子の実に穴が開いていて鳥の啄んだ跡があった。作者の観察力のお手柄。

◎ 崖の森 青空渡る 鶉の声 山田 常雄

崖線の森の散策。晴れ渡る秋空である。ふと鳥の声に耳をすませ鶉の鳴き声であった。鶉の好みは南天や青木などの赤い実。

◎ うなづみせ クリスマスローズは 物思い 小城 恭子

明治初期に渡来したクリスマスローズは花卉は小さい萼の五片が花卉状に見えて美しい。花茎の先端が首を垂れたように咲くのを人に見立てたところが面白い。

健友旅の句

●特選(2句)

◎ 富士何処 湖畔の紅葉 雨洗う 宮川 修一

湖畔の紅葉を雨が洗っている。富士山が見えると期待したが生憎であった。

◎ 宴会の でたらめダンス 鳳仙花 小城 恭子

面白いですね。でたらめのダンスが季語の鳳仙花にぴったりとあてはまっています。でたらめダンスがはじけていますね。

●入選（2句）

- ◎ 富士山をキャンパスに仕立てる 映え紅葉 榎本 一郎

富士山をキャンパスに仕立てれば紅葉はもっと美しく映えて見える。スケールが大きくて良い。

- ◎ 紅葉の グラデーション 峰と峰 茂木 良一

紅葉のグラデーションの作品は多いので類想句。下五の峰と峰はとても良い。

投稿の句

●一般（15句）

- | | | | | |
|---------|---------|-------|----|----|
| ◎ 冬の空 | きらりかがやく | 五輪塔 | 菊川 | 雄二 |
| ◎ 赤い実を | 競う南天 | 万両かずら | 菊川 | 雄二 |
| ◎ 崖線の | 雑木のぶらり | カラスウリ | 吉田 | 誠 |
| ◎ 京の寺 | あまりの紅葉に | 立ちすくみ | 岩瀬 | 雄一 |
| ◎ 赤黄緑 | 街の紅葉も | また楽しい | 岩瀬 | 雄一 |
| ◎ 冬の雲 | 穏やかなれど | 薬師堂 | 宮川 | 修一 |
| ◎ 陽のかげり | 水面の枯景 | ゆらぐ鯉 | 宮川 | 修一 |
| ◎ 石仏や | マント纏いて | 秋麗ら | 梅澤 | 輝男 |
| ◎ 冬の空 | 五色の池に | こい集う | 手塚 | 暁美 |
| ◎ 待ちぼうけ | 小春日和に | まあ良いか | 榎本 | 一郎 |
| ◎ 庭にプール | 孫持つ爺の | 影真下 | 茂木 | 良一 |
| ◎ 霜柱 | 飛び石を逸れ | 踏み砕く | 武居 | 正次 |
| ◎ 路端で | 背伸びして咲く | 彼岸花 | 金井 | 信男 |
| ◎ 紅白の | 色もめでたし | 梅の花 | 瀬川 | 恵美 |
| ◎ まだありや | あの冬木立 | 父と居た | 小城 | 恭子 |

●健友旅（2句）

- | | | | | |
|---------|-------|------|----|----|
| ◎ 焼栗の | 甘く広がる | 旅の締め | 小城 | 恭子 |
| ◎ コロナ明け | 宴会弾け | 菊日和 | 小城 | 恭子 |

従来は、各回の俳壇での発表は一般・旅行それぞれ一人一点の投稿として参りましたが、今回は複数の作品を掲載させていただきました。まだ投稿されたことのない会員の皆様、半年に一点、できましたら、毎月一点の投稿をしてみませんか。会報部では多数の投稿をお待ちしております。健友俳壇は常時受け付けています。一般の句、5月31日までの提出分を会報 〆 月号に掲載。11月30日までの提出分を会報1月号に掲載予定です。

「春迎え 一句作って 投稿を」

会報部